

# 「季節女工」に抗議、「ユリたちの旅路」に変わる

昭和43年11月29日放送のNHK「現代の映像」に対する抗議

香川県・フクスケ四国支部OB・合田 義行

昭和43年11月29日の夜、私はNHKの「現代の映像」にチャンネルを合わせていた。やがて時間がたち、来週の予告になったとき、私は画面に釘付けとならざるをえなかった。それは、次週予告として「季節女工」というタイトルが映しだされたからだ。

「女工」という言葉は私のもっともいやな言葉だ。昭和37年、四国支部から社員呼称の統一の緊急提案を出してから足掛け4年、ようやく準社員という言葉も無くなった。社会的にも「女工」「女中」といった言葉は無くなりつつある。それにも拘わらずNHKがいまだに「女工」という言葉を使うのはうなずけない。

## 翌日から早速行動

私は、早速翌日から行動を開始した。まず、全織同盟本部の坪西組織副部長に、NHKへの取り消しを申し入れることを連絡するとともに、香川同盟を通じ、同盟本部ならびにNHK高松支局へも連絡を取った。官僚的と思っていたNHK高松支局から意外な返事があった。「東京の本部で企画しているものだが、そのような社会的声があるのなら、十分意見は伺っておきましょう」という好意的なものであった。そして私は、一週間後の12月6日の金曜日を待った。

12月6日、新聞の朝刊を恐る恐る手にした。番組欄へ目を通した私は「うん、やった」と心の中で思った。「現代の映像」の題名が「ユリたちの旅路」になっていたからだ。

社員呼称の統一にしろ、今回のタイトル変更問題にしろ、そんな金にならん事をして何の役に立つ、見向きもしない人もいる。金にならないことには一切関心を示さない人たちには、このような運動は無意味だろうが、私は人間の基本的問題として、心の奥にしっかりと刻み込んでおきたい。

数日経って、坪西組織副部長から返事が来た。その文面を紹介して、この稿を終わる。

「連日のご奮闘ご苦勞様です。NHKの「現代の映像」のタイトルの件、強く申し入れ、変更させました。繊維産業も日増しに労働力不足の時代に入っておりますが、マスコミは繊維産業のイメージを悪くしており、就職率も下がっております。

いずれにしても、貴兄よりのご教示により手が打てましたこと厚く御礼申し上げます。今後とも、種々ご指示いただき、繊維産業を働きやすい職場にしていきたいと思います。以下略」

以上